

「佐倉教育ビジョン（平成23年度～32年度）（素案）」に 寄せられた意見と市の考え方について

（1）意見募集結果

意見募集結果	平成23年2月18日 から 平成23年3月 4日 まで	
意見募集結果	意見応募者数	1 人
	意見数	3 件
意見に対する対応	意見を参考に案を修正したもの	0 件
	原案のとおりとしたもの	3 件

（2）意見の内容と市の対応

No.	提出された意見の内容	意見に対する考え方	案の修正の有無
1-01	<p>I. 「（5）「佐倉学」の推進をはかります」（19-20頁）</p> <p>かつて佐倉には佐倉連隊が置かれていました。習志野市などのように、第一次世界大戦のときにはドイツ人捕虜を収容していました。そのあたりの歴史も「佐倉学」の該当範囲ですか。</p>	<p>「佐倉学」は、本市の歴史・自然・文化などを学ぶための事業です。ご質問の事項につきましては、「佐倉学」の範囲に該当いたします。</p>	無
1-02	<p>II. 「（6）新たな佐倉の魅力の発見と、芸術文化の普及をはかります」（20-22頁）</p> <p>「今後の方向性」では「異文化理解をとおして国際的な感覚を磨き」そして「新たな学ぶ意欲の喚起」の項目で「国際交流や異文化理解により、国際的な視野をもった人材の育成を支援します」とあります。佐倉における国際交流と言えばオランダが登場します。さて、日本はかつて第二次世界大戦で米英だけでなく東南アジアを舞台にオランダとも戦争しました。太平洋戦争といえば対米戦争という見方が支配的であり、オランダとも戦ったという事実を自覚している人はほとんどいないのではないかと私は思っております。事実、アメリカと凄惨な戦争をしたということを知らない日本人がいることを昨今のテレビや新聞などは話題にしています。それならオランダとも戦争したという事実を知らない人がいてもおかしくありません。もちろん国際交流において常に戦争という悲劇を持ち出す必要はありません。しかし過去の悲しい歴史を全く知らないというのは問題だと思います。</p> <p>まとめますと、国際交流や異文化理解がますます必要になる時代においてわが国と他国との交流の歴史を貿易や戦争を含めて包括的に学ぶことが重要だと思います。</p>	<p>国際理解、国際交流を推進して行く上で、両国の歴史を知ること大切なことですので、今後の事業の中で、適宜、配慮してまいります。</p>	無

1-03	<p>Ⅲ. 「(7) 安心して学べる教育環境の整備をはかります」(22頁)</p> <p>こどもの仕事は勉強だけでなく、遊びも含まれると私は考えます。「(2) 市民の教育に関する意識調査」(3-4頁)の「<問3:重点的に取り組むべき教育施策>」では第4位に「子どもたちの活動場所の確保」がきています。最近では公園などで「硬いボールで遊ぶな」など禁止事項が多いです。ルールを守りつつも自由に伸び伸びと外で遊べる場所を確保する施策を期待しております。遊ぶ場所がないから家でテレビやゲーム、あるいはボール遊びができないから公園でゲームというのは悲しいです。</p>	<p>遊びは心の成長にとっても大切な役割を果たしており、特に外遊びは、自由に伸び伸びと活動する中で体力の向上も図れるものです。また、子どもたちの自発的な活動の中で、喜びや楽しさ、緊張感などを伴う活動であると考えております。</p> <p>市内には学校の校庭を始めとして、公園など様々な外遊びの場がございますので、その中で、ルールを守りつつも自主的な活動ができるようお願いしているところですが、今後事業を進めていくうえで、参考とさせていただきます。</p>	無
------	---	---	---